

第44回大阪市学校適正配置審議会 会議録（全文）

1 日 時 令和8年3月30日（月曜日）15:00～17:00

2 会 場 大阪市役所 5階 特別会議室

3 出席者

（委員）50音順

一本松委員、臼田委員、大鳥委員、片山委員、高坂委員、小西委員、
多田委員、田中委員、谷田委員、徳永委員、中西委員、山上委員、山下委員

（事務局）

多田教育長、高井教育次長、福山教育監、山口区担当教育次長（港区長）、
松田総務部長、中道指導部長、近藤学校環境整備担当部長、
花月施設整備課長、山東学校適正配置担当課長、川村学校適正配置担当課長、
瀬脇初等・中学校教育担当課長、
古閑総合教育センター学力向上支援・調査分析担当課長、
坂田指導部首席指導主事

4 議事

小学校の配置の適正化に関する検証報告書等について

5 議事録

○事務局

第44回大阪市学校適正配置審議会を開会させていただきます。

委員の皆様方には、大変お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます、教育委員会事務局学校適正配置担当の友永でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、本審議会は、本市の審議会等の設置及び運営に関する指針第7、審議会等の公開によりまして、審議会及び議事録等を公開といたしております。

では、お手元の資料の確認をいたします。第44回大阪市学校適正配置審議会と書かれた表紙の裏に、本日の次第を記載しております。次第のとおり、4の報告事項、5の議事を経て、閉会は17時頃を予定しております。

資料につきましてご案内いたします。全部でお手元に3つ束があると思います。大阪市学校適正配置審議会と書かれた表紙から報告事項までが1セットで、ページ数が15ページ目まであります。議事につきましては、議事表紙と資料4-1、資料4-2、資料5までが1セットになっております。最後に参考資料をお付けしておりますので、必要に応じてご参照いただきますようお願いいたします。

皆様、資料はお揃いでしょうか。足りない場合、お声がけください。ありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、多田教育長よりご挨拶を申し上げます。

○多田教育長

皆様、こんにちは。大阪市教育長の多田でございます。いつも何かとお世話になりまして本当にありがとうございます。

それでは、第44回の大阪市学校適正配置審議会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、委員の皆様方には、公私何かとご多忙のところご出席を賜りまして、本当にありがとうございます。また、平素から本市の教育行政はもとより、市政の全般にわたりまして多大なお力添えを賜りまして、重ねて厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、本審議会につきましては、大阪市学校適正配置審議会規則に基づき、大阪市の学校配置の適正化に関する様々な課題について審議する会議でございます。昭和53年の設置以来、学校配置の適正化に関する重要事項について、調査・審議をいただきこれまで多くの大変重要な答申や意見書をいただいております。

本市におきましては、近年、市内の中心部でタワーマンションなどの大規模マンションの建設により児童生徒数が急増している学校と、少子化に伴いまして小規模化している学校の二極化が進んでいる状況でございます。本審議会におきましては、小規模化している学校配置の適正化を中心に調査・審議をお願いいたしまして、これまで本市では、この審議会からいただきました答申及び意見書に基づいて取組を進めてまいったところでございます。

前回の審議会におきましては、この間、進めてまいりました小学校の適正配置が実際にどういう影響や効果をもたらしているかということを検証するための視点について、ご意見を頂戴いたしました。本日の審議会では、この間の取組状況につきましてご報告をいたしますとともに、前回いただいたご意見も踏まえまして「小学校の配置の適正化に関する検証報告書」の案として取りまとめをいたしましたので、これにつきましてご意見をいただきたいと思いますと考えております。

委員の皆様方からの忌憚のないご意見を賜りまして、本市の学校配置の適正化の進展に活かしてまいりたいと考えておりますので、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、本日ご出席いただいております委員の皆様方をご紹介申し上げます。お手元の資料2ページ目に委員名簿をお付けしております。

それでは、名簿に記載の順にご紹介申し上げます。

当審議会会長をお務めいただく、神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授の山下委員でございます。

当審議会会長代理をお務めいただく、大阪経済大学経済学部准教授の臼田委員でございます。

大阪市社会福祉協議会評議員の一本松委員でございます。

もと大阪市PTA協議会副会長の大鳥委員でございます。

京都教育大学大学院連合教職実践研究科教授の片山委員でございます。

弁護士の高坂委員でございます。

大阪市PTA協議会副会長の小西委員でございます。

大阪市地域振興会副会長の多田委員でございます。

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授の田中委員でございます。

大阪市地域女性団体協議会書記の谷田委員でございます。

帝塚山大学教育学部こども教育学科教授の徳永委員でございます。

桃山学院大学社会学部社会学科准教授の中西委員でございます。

産経新聞大阪本社論説委員の山上委員でございます。

事務局の出席者につきましては、同じく資料2ページ目記載のとおりとなりますので、こちらをご参照、お願いいたします。

それでは、審議会規則第4条第3項、「会長は、審議会を代表し、議事その他の会務を総理する。」の規定によりまして、これ以降の議事の進行を山下会長にお願いいたします。山下会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○山下会長

それでは、失礼いたします。改めまして、委員の皆様方、年度末のお忙しい中ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。数日来、急に温度も上がりまして、桜も咲き始めております。毎回この審議会では、委員の皆様方から本当に熱心なご意見を賜っておりまして、本日もそのように賜れば幸いと思っております。桜が子どもたちの入学シーズンで迎えられるように、我々も大阪市の子どもたちのために議論を尽くしていければと思っております。

それでは、本日の次第をご覧くださいますと、先ほど教育長さんからもご指摘がありましたように、報告事項、今年度の概要に関しての報告事項と、また議事といたしまして検証報告書に関して準備されております。

それでは、まず、4、報告事項となりますが、これは（1）から（3）併せて事務局からご説明をいただきたいと思っております。その後、また委員の皆様方からご質問、ご意見等を賜る予定となっております。

それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

○山東学校適正配置担当課長

報告事項について事務局より説明

- （1）令和7年度児童・生徒数、学級数の現況について
- （2）学校適正配置の取組状況について
- （3）大規模校の現状と経過報告について

○山下会長

ご報告ありがとうございます。大変膨大な内容、論点を端的におまとめいただいたものと取らせていただきました。

それでは、委員の皆様方からご質問、あるいはご意見等を伺っていききたいと思えます。とりわけ伺っているところでは、報告事項の（2）にあたります資料2-1、ページでいいますと12ページになろうかと思えます。こちらの中学校の適正配置対象校の状況については、大阪市さんで中学校における配置適正化の規定を整備されて以降、初めて今回ご報告いただく内容になると伺っております。とりわけこうしたところを中心に、またそれ以外のところも含めて疑問のところ、あるいはもしここで共有しておいたほうがいい情報等がございましたら、あるいはご意見等がございましたら、積極的にお出しいただければと思えます。

それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見、ご質問のある方、挙手いただければと思えます。

○片山委員

4ページの児童生徒数の推移ですけれども、大阪市のほうで児童生徒の数が半減しているということは以前から伺っておりますけれども。大阪市では、今、子育て支援とかもたくさんやっておられると思えます。そこら辺でいろいろ保育料の無償化とかもありまして少しその辺りを含めて、今後の見通しはどういうふうになっているのかを教えていただけるとありがたいです。

○山下会長

それでは、今ご質問がありましたけれども、向こう5、6年については、小学校の推移も把握できるのではないかと思います。その辺りでもし事務局からご紹介いただける事柄がありましたら。あるいは、委員の皆様も今のご質問に関連してご質問、ご意見、あるいは情報提供がございましたらお願いしたいと思えます。

それでは、事務局お願いします。

○近藤学校環境整備担当部長

学校環境整備担当部長の近藤でございます。いつもありがとうございます。

大阪市の将来人口動態がビジョンなどで出ているのですが、それを全体に見ますと、やはり子どもの数は減っていくというのが今の見通しとなっております。先ほど教育長の冒頭の挨拶でも申し上げましたが、市内中心部のほうではタワーマンションの建設とかの影響によりまして非常に児童生徒が増えている学校と、大阪市内周辺区の学校は少子化の影響等を受けまして小規模化しており、非常に二極化している状況ではあります。学校ごと、地域ごとで見ますと、増えていくであろうと想定されている区もございますが、全体としては右肩下がりという状況になっていると認識しております。

○片山委員

ありがとうございます。

○山下会長

ありがとうございます。そのほか、委員の皆様、今のに関連して何かありますでしょうか。このグラフ、先ほど片山委員がおっしゃっていただいた4ページのグラフを拝見しても、実は平坦に推移している部分があって、これは非常に都市部特有の現象なのかなとも思いながら拝見しておりました。ただ、国全体としては少子化の方向で進んでおりますので、児童生徒の増減に関しては一時的なもので、さらに今後また変動していくというところがあるかもしれません。

これとも併せて、本日過大規模校についても14ページでご紹介がありまして、この話も関係してくるところかなという気もしております。委員の皆様方、どうぞ自由にご意見、ご質問を出していただければと思います。

それでは、田中委員、よろしくお願いいたします。

○田中委員

質問なんですけど、14ページの過大規模校の中で分離新設や通学区域の見直しなどが示されているけれども、近隣に適切な用地がないことで教室転用や校舎の増築で対応せざるを得ないというような書き方がありました。実際、副校長を配置するといった人の工夫というか人員の工夫はできていると思いますが、物理的なところで言うと、それこそ教室転用をした際に、様々な教育環境を整備するといった中で、例えば行き届かなく、特別教室が足りなくなるというような実態があるのか。また、先ほどの話でもあったんですが、今後そういったことが見通しとしてあるのかどうかということを確認させていただきたく思いました。

以上です。

○山下会長

ただいまご質問で、過大規模校特有の問題でもあります施設整備の観点ですね。もし、事務局から追加で情報提供いただけたところがあれば、よろしくお願いします。

○近藤学校環境整備担当部長

教室転用でございますが、過大規模校・大規模校だけでなく、適正規模であるけれども学校自体がそもそも大きくないと言いますか教室数をそんなに有していない学校もございまして、そういう学校におきまして生徒数、児童数が増えた場合、現在、実際に一部、特別教室を普通教室に転用しております。

増築をするなどの対応もしているのですが、やはり増築までに時間がかかり、工事期間もかかりますので、その間、少し圧縮した、教育環境的には望ましくない状況というのは分かっているものの、やはり児童生徒さんに入っていただくところがないということを守るために、教室転用というのはさせていただいています。

今いろいろ説明をさせていただいた中で、大規模校になっても適正規模に戻る学校、児童数、生徒数の推移でみると増えた後で減るという状況もございますので、減ってきたら速やかに普通教室を特別教室に戻すといったようなことで対応させていただいている状況です。

以上です。

○田中委員

ありがとうございます。

○山下会長

ありがとうございます。今のに関連して、もし委員の皆様からあればと思うのですが。

もし、ないようでしたら、私から1点確認なんですけれども。少し前に大阪市内で改築ができてわりとうまくいって全国からも注目されたような事例があったかと思えます。なかなか改築も簡単ではないかと思うのですが、もし可能でありましたら、その辺りの事情等についても補足していただける部分があればと思いました。

○近藤学校環境整備担当部長

改築の内容は具体的にどのようなものか。

○山下会長

確か東京の事例を見習いながら、建物は校地の制限があり横には伸びないので縦に伸ばしていきながら、例えば屋内プールとかそういったものの工夫があったというように伺っておりますが、いかがでしょうか。

○近藤学校環境整備担当部長

平成29年度に、市内中心部児童急増対策P.Tという市長をトップとする急増対策を考える会議がございまして、そこでやはり限られた校地の中でどうするかということで、今まで学校というのは3階とか4階が基本でしたが、一部学校においては6階、7階という高層化をする、あるいは、体育館の上にプールをつくるといった形で、運動場を確保しながら校舎の高層化であったりとか、体育館の重層化であったりとか、そういったことも取り組んでおります。

○山下会長

ありがとうございます。現在挙げていただいております過大規模校や大規模校に関しては、そういう工夫も状況が難しいという理解でよろしかったでしょうか。

○近藤学校環境整備担当部長

既に取り組めるところはほぼ対策をしておりますので、これ以上の工夫が難しい状況でございます。

○山下会長

ありがとうございます。そのほか、委員の皆様、いかがでしょうか。

それでは、次第に従いますと次が議事となっておりますので、もし振り返って何かお尋ねになりたいこととか情報提供をいただけるようなこと、あるいはご意見がありましたら、また振り返って議事の中でもお申し出いただいても結構です。

それでは、続きまして、議事に入っていきたいと思っております。それでは、議事に関しまして事務局からご説明をよろしくお願いいたします。

○近藤学校環境整備担当部長

議事について事務局より説明

小学校の配置の適正化に関する検証報告書等について

○山下会長

ありがとうございます。大変丁寧に、また幅広く検証いただき、そして、またそれを可能な限り分かりやすくおまとめいただいて、非常に有益な資料になっているのではないかなと思いました。また、進め方としても、委員の皆様にも直接、事前に様々にお尋ねいただき、大変お手間をかけていただいているのかなということを改めて痛感した次第です。

それでは、こちらの概要版とともに報告書本体もございまして、大分な量ですのでなかなか簡単に全てにお目通しは難しいかもしれませんが、ご意見、ご質問等承っていきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、既に委員の皆様方におかれましてご意見を出していただいている、そしてまた、それについての回答も受けているところとも聞いております。そういう点では、これで大分ご満足いただいているのかなとも思うのですが、その出していただいたご意見、それもまた振り返ってここで共有していただければ大変嬉しいかなと思います。

それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見、ご質問がある方は挙手にてご発言、お願いいたします。

一本松委員さん、お願いします。

○一本松委員

すみません、一本松と申します。

大変丁寧にいろんな意味で大変なことを実行していただいていると私は思っているのですが、ただ、私は地域との関係についてちょっとお伺いしたいです。学校がなくなるということは、その地域の活性化、統合しても地域は統合することがないんですね。そこのところで、子どもたちの見守りや登下校の案内、信号で立って毎朝地域の者が交代でしているとか、そういうことで地域が活性化しているんですね。統合したら、学校がなくなった地域は本当に活性化できないでいる。この審議会の目的は違いかも分かりませんが、そこのところもちょうと考慮して、何とか地域共々、学校も発展するような形にさせていただけたらありがたいと思います。

○山下会長

ありがとうございます。大変重要な事柄かと思います。また、事務局からご回答いただくだけではなくて、これはまた本日ご出席の委員の皆様方から、もちろん同じようなご心配を持っていたりしている方、あるいはそういうふうな状況に対してこんなふうな取組があるよというような方、様々なお立場、ご経験から情報共有していただける部分、あるいはさらにご質問を重ねていただける部分があるかなと思っております。その辺りも含めて、まず委員の皆様方からこれに重ねてご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

○大鳥委員

地域のお話が出てきていますので、僕も地域の話ここでするものかどうか分からなかったのですが、今お話が出たので僕もさせていただきたいと思います。

意見としては同じ意見なんですけど、地域から学校が消えるということは当然PTAも消えるということになり、完全に地域が孤立する状態になります。今までは学校と地域とPTAとでその地域を盛り上げていくような形を取っていますが、そこからPTAも消えていってしまうので心配なところはあります。

アンケートは、学校へのアンケートと保護者へのアンケートだけで、地域の方へのアンケートがあるのかなというところが気になりました。

あと、どういう形でこのアンケートは取られているのか。学校のほうでもし取られているアンケートであれば、不登校の子どもたちに対するアンケート、不登校の子どもたちの保護者に対するアンケートは取れているのかなというのが気になると思います。

○山下会長

ありがとうございます。ただいま、PTAと、これはもちろん学校が統合して保護者の方がお住まいの地域がおありになって。その方々もPTAを担っていただいるかもしれないのですが、ご指摘のところでは、恐らく地域との関係の結びつきが少し弱くなってしまうというようなことかなと思ひまして。これは、私もずっと気になっているところです。PTA活動を神戸市内でも少し解散しようかというところが出てきているのですが、そうなった時に少し耳に挟んだところでは、地域づくりの様々な自治会も含めた団体の後継者がいなくなると。これまでだったらPTAがその入り口になっていたのにそういうのがなくなってしまうというようにお声を伺って、これは非常に深刻な、もしかしたら将来影響を与えてしまう可能性があるなと思ひながら伺ったところでした。

この辺りのことも含めまして、学校だけを対象にすると、地域のことは議論しませんという選択肢もあるかもしれないのですが、学校のことを考えるのは地域の未来を考えることにつながっていますし、また、地域の未来を考えることが学校を支えていくということにもなっていますので、ここでは自由にご議論いただいていいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。地域やPTAのお立場からまたご意見をいただければと思います。小西委員、多田委員、あるいは谷田委員さん、もし何かありましたらどうぞ。

○小西委員

小西です。

今、地域の話が出たのですが、私の子どもが勝山小学校に通っておりまして卒業したのですが、確かに勝山小学校は、今年度3月いっぱい、明日をもってなくなってしまう、廃校になるということで取壊しということになっています。そうなった時に、勝山地区の地域の人たちはどこで祭りをしたらいいのかという話がいつも出ています。統合します東桃谷地域の人たちと一緒にやったらいいんじゃないかなとは思ひのですが、やはり地域はなかなか難しいところがあるのかなと思ひますが、仲よく地域もやっていっていただけたらいいなと思ひております。

あと、話が変わるのですが、資料の4ページのところの環境の変化への支援等に関するということ検証4のところ、教員やスクールカウンセラーの増配置ということだったのですが、教員が今減少しているということがありますが、スクールカウンセラーやスクールサポートスタッフの増配置、こちらは人数的にはいかがなのでしょうということをお聞きしたかったので、お願いします。

○山下会長

ありがとうございます。今の後段のご質問は、スクールカウンセラーやスクールサポートスタッフそのものが成り手の方が十分いらっしゃるのかどうかというようなご質問でよろしかったですか。

○小西委員

はい。

○山下会長

ありがとうございます。早速事務局から。これまでに頂戴したご質問でお答えいただけたところがあれば、それも含めてご回答いただければと思います。よろしくお願いします。

○中道指導部長

教職員については私の担当ではないのですが、スクールサポートスタッフ、カウンセラーの部分につきまして、これも今の適正配置とは少し外れるかもしれませんが、いろいろな教育環境、子どもたちの課題も含めて非常に重要視されている学校の支援のポジションかなと思っています。

いろいろな形の施策があって、区とも協力したりいろんなところとも協力をしっかりしながらやっているところではあるんですけども、やはりその人材の確保といえますかそういったところについては、教員と同じく課題もたくさんありまして、潤沢にそういう人材があるという状況ではありませんので、そういったことも含めて我々事務局としても、しっかりとした確保と配置に現在努めているようなところでございます。

以上でございます。

○山下会長

これは、ちなみに増配置というのは、普通1校当たりの人を増やすみたいなイメージですか。

○山東学校適正配置担当課長

2校の統合であれば両校長、3校であれば3校長と、資料にお示ししています教員、スクールカウンセラー、スクールサポートスタッフなどの人員配置を相談して進めている。

人材確保という課題はあるものの、来年度につきましては、再編を進めている9区では、学校からの要望どおり、増配置ができると考えております。

冒頭、一本松委員からございました、地域から学校がなくなると地域活性が衰退するのではないかとといったご意見、大鳥委員からも同じく地域、もしくはPTAというお話がございました。学校再編につきましては、区長である区担当教育次長が計画をつくりませんが、教育委員会へも相談をしながらつくっていきますし、地域に小学校または中学校が残るような形でできないかを検討に入れながら進めております。

生野区での学校跡地活用の先行事例では、学校が廃校となった後にもインターナショナルスクールという形で校舎を活用し、防災拠点、地域コミュニティ活動の場となっているところです。勝山小学校につきましては、校舎が古く解体をしなければならない事情もございますが、区役所でどういう形で活用するかを検討されていると聞いております。

また、地域の方にアンケートを取らないのかという大鳥委員からのご質問ですが、今回の検証においても、学校の視点として、地域活動もしくはPTA活動がどうなっていたかについて、統合を経験された管理職に聞き取り調査でお伺いしております。

不登校に対するアンケートについては、不登校の子どもに対して、またその保護者の方に対してどこまでこのアンケートを取れているか、今すぐに分からないので調べられる範囲で学校にお伺いします。

○山下会長

ありがとうございました。大鳥委員さん、最後の不登校の児童生徒、あるいは保護者の方へのアンケートについて、もしこういったところをご心配だとか気になるというところがあれば、今出しておいていただけたら、事務局も検討のポイントになるうかと思います。いかがでしょうか。

○大鳥委員

今後、中学校の統廃合が進むということで、当然中学校のほうが不登校が多いのと、校区がもともと広いのでそれがまた広がるということで、もっと行きにくくなるのではないかと。もっと朝早く起きないといけなくなるという時に、朝起きられないことが理由で学校に遅刻していきなり学校に行かなくなったりしている子どもたちも結構多いと聞くので、その辺のことがちょっと気になっている。

小学校では地域の人たちの見守りとかも厚いところがあると思いますが、中学校になるとその辺も抜けていくし、親との距離も離れていくというところで、その辺、学校からしたらどういうふうな、今の小学校でやってきたようなアンケート調査とか子どもたちへのアンケートとはまた違うことが必要になってくるんじゃないのかなというふうには感じます。

○山下会長

ありがとうございます。ということですので、事務局、またご検討いただければと思います。

今、事務局から一本松委員さん、大鳥委員さん、小西委員さんへのご質問、ご意見の回答があったわけですが、それを受けられて、今の3名の委員の皆さん、あるいはほかの委員の皆さん、多田委員さんとか地域の実情を踏まえ、何かご意見、ご質問があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○臼田委員

今、跡地活用のお話がありましたので、私からもお話をしたいと思います。

小学校と中学校の校舎の活用は非常に難しく、実際10年、20年間も活用されないままになっている場所もあります。私はこれまでの研究を通じて、跡地の活用には3つの覚悟が要るのではないかと感じています。1つ目は、地域として受け入れる覚悟が要るのではないかとということです。地域から活用内容について「こういうものは嫌だ」「こういうものはいい」といった意見がでますと、跡地の活用に関民間事業者、行政としてなかなか活用に関踏み切れないケースがあると聞いています。地域として、跡地の活用についてなるべく幅広く受け入れるようにしていただきたいと思います。跡地の活用はただでさえ難しいので、活用のハードルを上げ過ぎると余計に活用が進まないのではないかと思います。

2つ目は、これは行政の話になりますが、費用を負担する覚悟を持つ必要があると思います。学校のときは教育委員会の負担で維持管理をするのですが、廃校となった後の管理をどこが担うのかがいつも問題となります。跡地をまちの活性化に活用するとなれば、教育予算を使うわけにはいかなくなります。跡地活用には資金の手当てが必要となります。例えば建物をきちんとメンテナンスをする必要があります。無償で貸し付けているケースや、建物自体も改修して民間企業に提供しているケースもあります。そういうことを考えないといけないのではないかと思います。

3つ目が、これは民間企業の話になりますが、跡地活用をやり抜く覚悟を持っていただきたいと思っています。跡地活用について、地域及び行政の協力の上で実施するとなれば、民間企業としても学校跡地がもともと地域活性化の場であったことを理解し、防災拠点や祭りの場などの地域利用に協力しながら、跡地活用をやり抜く覚悟を持ってもらっていただきたいと思っています。

最近の跡地活用の状況を見ていると、学校跡地の活用にはこの3つの覚悟が必要ではないかと感じています。地域、まち全体の活性化の視点で考えれば、学校跡地が資産となります。その活用によって、さらにまちがよくなると考えていただけたらと思います。

以上です。

○山下会長

ありがとうございます。大変含蓄のあるご指摘だったと思われます。この跡地活用も含めて地域のまとまり、小学生、中学生が統合して一つの学校で学んでいただいて、そうすると、数十年後にはもしかしたら地域のまとまりも生まれてくるかもしれないんですけども。じゃあ、今すぐということになった時に、学校が残った地域は何か勝ち組とか、なくなった地域は負け組みたいになるのもちょっとおかしい話であります。この辺りができるだけ早く融合するようにどういうふうに加勢していけるかというようなこと、これは教育行政の範囲を超えてしまう部分もあるかもしれないのですが、社会教育やまちづくりということで一体的に何か取組をしていただけると、行政としては大変嬉しいかなというふうに思います。また、これも行政に任せっ放しでなくて、地域の方から何かこういうエネルギーを出していただけるような場の設定とか、何かあればいいのかなということも思わされた次第です。

関連して、委員の皆様いかがでしょうか。もしないようでしたら、今、割と学校と地域の関係、あるいは地域の事柄についてということに焦点が当たっていましたが、学校側に焦点を当てた場合のご質問やご意見等、いかがでしょうか。徳永委員さん、もし何かお気づきの点があれば。よろしくお願いします。

○徳永委員

事前の説明も受けまして、この細やかな検証を今されているところだと思うのですが、その時にもちょっと申し上げたのですが、やっぱり学校を支えるスタッフの事務方の意見というんですか、そういったのも丁寧に拾っていただいてチーム学校として、していかないといけないねというお話をさせていただいたところです。

どうしても事務職の方は1人配置とかということが多いですので、そういう方々がうまく中心になって結局やっていただかないといけないことも多いと思いますので、その辺りのことを丁寧に聞き取ったりしていただいて、その方が学校を支えているんですよというアピールを分かってもらうような何かそういう手だてがあれば、働いている方々もすごく満足度が高い。そして、一緒になってつくっていくんだというふうになるのかなということをいつも思っています。

細やかに検証して子ども、保護者、教職員というふうになるのですが、どうしてもそういった少数派というんですか、その辺もやっぱり違った面から意見がもらえるのかなと思ったりしております。よろしくお願いいたします。

○山下会長

ありがとうございます。事前にもご指摘いただいていたということで、ここで共有していただいてありがとうございます。とかく孤独感、孤立感を感じてしまいがちな面もありますし、また学校の運営を統廃合の事務を含めて要になっていただくところがあると思いますので、また今後ご検討いただければと思います。

どうぞ。

○山東学校適正配置担当課長

事前にもそういったお話もいただきましてありがとうございます。特に再編の1年前は、通常の学校事務職員が担う業務量に突発的な事務も増えてまいりますことから、この4月に開校する東勝山小学校の開校に向けましては、その1年前に東桃谷小学校、勝山小学校の事務職員の方や共同学校事務室の桃谷中学校の事務主任の方も入っていただいて、この1年間で何をしていかなければならないのか、ということで、受入側の学校では体育館の緞帳を変えたり、校歌の板を買い替えたり、また、行く側の学校は物品を運んだり、備品の処分が必要になったり、というような、これまでの統合の知見・ノウハウを活かし情報共有し、学事課とも連携を図りながら進めているところでございます。

○徳永委員

ありがとうございます。

○山下会長

ありがとうございました。それでは、この後にまたアンケートの調査についての案の議事もございますので、先ほどのご意見、ご質問に続きまして、また振り返りながら出していただいてもいいかなと思っております。

時間の関係もございますので、それでは、アンケート案について、事務局からご説明よろしくをお願いいたします。

○川村学校適正配置担当課長

報告事項について事務局より説明

小学校の配置の適正化に関する検証報告書等のアンケートについて

○山下会長

ご説明ありがとうございました。こちらのアンケートが教職員の方へのもの、また児童生徒へのもの、そして保護者の皆さんへのものというふうに案を作っていました。これが統合されて半年後に実施されるものということでした。

内容についてまだ変更も可能という理解でよろしかったですかね。ですから、委員の皆様方からご要望なり、あるいはご指摘、ご質問を受けてそのアンケートをブラッシュアップしていくというのがここでの議事内容になろうかと思えます。

それでは、既にお出しいただいて既に改善された部分もあるかもしれませんけれども、もしお気づきの点、あるいはご質問等があれば、委員の皆様からよろしく願いいたします。

○高坂委員

すごく丁寧にアンケートを作っていて、非常に答えやすくなって意見が反映しやすくなったように思いました。ありがとうございます。

1点教えていただきたいのですが、今回の統合で「目標に向かって頑張る力」のところ統計的に低くなっているというようなご説明をいただいたかと思えます。私は、統合と、このぶれない心の部分が低くなることの相関関係について、どうしてそこが影響を受けているのかが明確に分からないなと思っているところです。要因は今後分析というふうにご説明いただきましたが、このアンケートで何か参考になるものが収集できそうでしょうか。その辺りを教えていただければと思います。お願いします。

○山下会長

ありがとうございます。この辺りに関しまして、もちろん事務局からもご回答いただいてもと思いますけれども。もし、委員の皆様方、何か今の高坂委員のご意見でお気づきのこととか、あるいは同じく疑問に思われたことがありましたらお出ししていただければと思います。

○山上委員

すみません、追加ですが、先ほどの検証2で、子どもが遊ぶことが少なくなったという否定的な回答が9.5%あるんですけれども、ちょっとよく分からないんですが、どういう理由で遊ぶことが少なくなったのか、中身はございますでしょうか。

○山下会長

そのほか、委員の皆様、いかがでしょうか。もう別のご質問でも結構ですし、今のご質問に関連してのご質問、あるいはご意見でも結構です。また、既にご発言いた

だっている委員の皆様でも大丈夫ですので、ご意見、ご質問があれば。その間に事務局もご対応を用意していただけるのではないかと思います。

○山東学校適正配置担当課長

高坂委員からのご質問については、すすくすくウォッチの結果の要因については今後分析してまいります。

アンケートについては、まだ案ですので、ぶれない心というのがどういう形でアンケートで取れるのか今後検討します。

山上委員からありました遊ぶことが少なくなったというところの9.5%についても、確たる原因が何かというところがはっきりと掴めてはいませんので、これについても、管理職の先生や教員に聞いて検証していきたいと思います。

○山下会長

ありがとうございます。ちょっと考えると不思議な感じもするというか、こういう観点が広がるのかなとも思われるのですが、何が起きているのか大分クリアにさせていただけるとありがたいかなと思います。もし、その上で何かこういうところに注意したらいいのではないかなというようなご提案とかもありましたら、それも含めて、あるいは、別のご質問、ご意見でも結構です。

○田中委員

質問というか、意見なのですが。このアンケートについて、事前に意見を反映していただいて本当にありがとうございます。改めてこれを見てきたときに、2ページの特に問23、問24なんですが、例えば「経験年数やバランスの取れた教職員の配置となった」や、「男女比の偏りが少なくなった」というところを設けたほうがいいですねということをそのときにも申し上げたんですが。改めてこの資料と一緒に見てきたときに、検証なども含めてなのですが、学校組織を運営していく際に、教育委員会のスタンスってどこまでなんですかということを確認したいということでした。

例えば検証7の本文の24では、地域の事情などを把握している教員が統合後の学校に何人残るかが重要。これも教員の人事配置だと思うんですね。ここの部分をどれだけ例えば校長の意見を聞いて教育委員会が人事異動を考えるのかということ。教育委員会が考えるとなった時に、このアンケート2について、問23、問24については、管理職の認識を聞きたいのか。認識であれば多分この聞き方でいいんですけど、男女比の偏りは少なくなったかどうかというのは、教育委員会がしっかり把握していることだと思うんですね。その前の統合前にどういう人員がいてどうなったか、そこまでは把握していないと。

人事配置とか人事異動というところについて、やはり教育委員会としてどのようなスタンスで校長先生、あとはその関係の先生と話し合いながら、でも人事異動ってその統合した学校だけではないので、全ての大阪市として考えていかないといけない時に、どこまで教育委員会がスタンスって言うところとちょっとどう聞いていいのか分からないんですが、そこら辺をどのようなさじ加減で考えているのかを確認したくて発言させていただきました。

以上です。

○山下会長

ありがとうございます。

○山東学校適正配置担当課長

ありがとうございます。今のご質問ですが、おっしゃるとおり、人事異動の際に、経験年数やバランスの取れた配置を意図してできるかというところ難しい部分もございます。ただ、文科省の手引で、小規模校においてはこういった課題が見受けられるとさ

れていますので、内部でも検討し、今回の検証項目としております。

結果としてどうなったか、ということで質問しております。あくまで校長先生に求めているのではなく、結果として小規模校の課題がどれくらい解消されたのか。人事としてこれを意図的に行うわけではないものの、当然、規模が大きくなればバランス、男女比がある程度大阪市の平均に近づいていくと考えております。

○山下会長

田中委員さん、もしあれば。

○田中委員

その人事異動のところについては、そのとおりだと思うんですね。そこをどこまで教育委員会側がしっかりと認識をしているのかということ、ここで聞くことが本来あるはずのデータを元に、校長先生が運営する中でどういうふうな感触を持っているかということは大事だと思います。一方で、数のことだったりというのは、やはり教育委員会側が人事異動の中でしっかりとこういった課題について対応していくというスタンスは大切ではないかなというところは、改めて発言させていただきました。

○山下会長

ありがとうございます。事務局としても、この辺り、鋭意努力して教職員配置をしたと。ただ、それが本当に、これは小規模だったのが難しかったと。少し規模が大きくなることによってその辺りがスムーズにやりやすくなったかどうかということを検証するというような意味合いとして、一旦は引き受けさせていただいて。

田中委員さんのご指摘もそういうふうなところなのかなと思います。必ずしも経験年数、男女比を統一して同じ比率にすることだけがもちろん人事異動の目的ではないわけでありまして。それが、小規模の場合やりにくかったのが、実際やってみてどうだというようなことを検証することなのかなというふうに承りました。

そのほか、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

○徳永委員

質問ですが、教職員のこのアンケートの選ぶ段階なんですけれども、教職員の皆様へのところに「分からない」というのが入っています。これは何か意図があるんですかね。ここだけ6段階になっているんですね。ほかは5段階になっていますが、これに違和感を私は覚えまして。

○中西委員

それと関わってですが、小学校低学年は「そう思う」「わからない」「そう思わない」で、小学校高学年が「かわらない」、これはただの誤植なのか。

○山下会長

事務局、いかがでしょうか。

○川村学校適正配置担当課長

まず、1点目の教職員へのアンケートにつきましてですが、「分からない」という選択肢を設けておりますのが、こちら、人事異動で新しく来られた先生方を含めて広くデータ収集をするということを目的といたしまして、選択肢6に「分からない」と、前の状況が分からないという、そのような選択肢を設けさせていただきました。

さらに、児童用のアンケートの「わからない」というのは「かわらない」の間違いということで修正させていただきます。

○山下会長

ご回答ありがとうございます。ご質問いただいた委員、そういうことでよろしかったですか。

○徳永委員

今のご説明によって理解はできたのですが、その方でない方も「分からない」というふうに同じ質問でしたら、変わってきた方が答えにくいであろうから「分からない」を入れたということでしたけど、現実、変わってきていない統合された人も「分からない」って言うかもしれないかなとちょっと思いました。どうなのかなって。その辺が分からないというか曖昧な感じやなって、そういう印象を受けたので、そうお尋ねをいたしました。

それなら、変わってきた人用と、いてはった人用が要るんかなとも思ってみたり。何かこの質問に「分からない」というのを答えるというのが、個人的に違和感を覚えました。

以上です。

○山下会長

ありがとうございます。これ、なかなか難しいところですね。確かに、厳密に統合によって効果を測定したいといったときには、やっぱり「分からない」というのはないほうが恐らくノイズの少ないデータが取れる。一方で、ご提案としては、異動してきた方にも何か空気として感じるところがあれば比較ということで、質問は大体比較になっているのですが、比較ではなくても何か例えば聞いて、あ、増えたんだなというようなことで丸をつけたらどうか、そういったような意見も拾いたいというご趣旨かなとも思ったんですけれども。これは、難しいところですね。いかがですか。

○川村学校適正配置担当課長

ありがとうございます。こちら、アンケート案ということで作成させていただいておりますので、ただいまのご意見をいただきまして、事務局で再度検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○山下会長

それでは、検討させていただきます。また、検討の結果については、後日ご紹介いただけるという形で理解しておけばよろしいですかね。分かりました。

では、徳永委員さん、そういうことでご理解いただければと思います。

○徳永委員

ありがとうございます。一つの意見として。

○山下会長

いやいや、でも重要なところですね。そのほか、いかがでしょうか。

それでは、こちらのアンケートも大変丁寧に設計していただいているかと思います。個人的には、画面上でどんなふうな回答の状況になっていくのかなというのがまた気になったので、もし機会がありましたらまた教えていただければと思いました。

それでは、今の報告いただきまして、また議事も踏まえまして、何か最後にご意見、ご質問等ございましたら。あるいは、全体を通じてのご感想等も含めて何かありましたら、委員の皆様から伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

○中西委員

検証のほうですが、検証の5の教職員等に関すること、私も意見させていただきました。加えて見ていただきまして、本当にご丁寧なお仕事にも頭が下がる思いでございます。

分析として気になったので申し上げます。資料4-2の25ページのところの検証になります。基本的にこれを拝見すると、先生方、おおむねポジティブな回答なんだろうなと思いました。4)検証の1つ目です。統合後アンケートでは、約5割が課題が生じている、うち4割がこういう理由ですね、各校の方針の違いや教職員間の交流等ということなんですが。4割というのをどう考えるかですね。恐らくいろんな課題があるうちの多数派がこういうマネジメント関係だったということだと思いののですが、具体的に書いてもらっているわけじゃないですか、どういう課題ですかということ。であれば、こういう多数派を取ることはもちろん大切なんですけど、もっと決定的に少数の意見を拾うということをしたほうがデータの分析の方向としては強いかなと思います。

というのは、大きな話として、学級数とか学級規模というのは、子どもの数、児童生徒数を35人とか40人に対して教員1人を配置するということをもって教育資源の公平な配置としますという義務教育標準法の考え方の哲学からきているわけですが、あれは子どもにとっての公平な配置であって、教師にとっての公平じゃないです。やっぱり忙しい、大変な学校とかあったりするわけで。そのときに、意見としては少数かもしれないけれども、例えば不登校の子がちょっとしんどいとか、最近のホットな話題で言うと外国人の子どもがとか。そういう少数かもしれないけれども大切な話題というのを拾って、その学校とかその先生に話を聞くということにもう少し、せっかく文字を書いてもらうという回答をしていただいているので、そういうふうにデータ分析を活用してはいかがですかという、ただの意見でございます。

○山下会長

いえいえ、大変重要なお意見で。自由記述の回答についての分析について踏み込んで。恐らくヒアリングもしていただいているとは思いののですが、特に課題面とか、あるいはその中にも一見課題に見えるんだけど、非常に重要なそれら乗り越える手がかりが秘められている可能性もありまして。この辺り、もし事務局からでもご回答いただければと思いますが、委員の皆さんからもし関連する事柄でご提案とかご質問、ご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

こちら、事務局、追って課題ということになるかもしれませんが、もしよろしければご回答をよろしくお願いいたします。

○山東学校適正配置担当課長

今いただいたご意見、自由記入欄の少数意見についてはまた分析してまいります。この半年後アンケートの結果については、もちろん学校長にもお返しをしていますし、学校にも学校運営に役立てていくことができるようお返ししています。アンケートの少数の意見の取り方については、主に管理職になると思いますが、教員の方にも聞き取りもしながら、学校へのフィードバックの方法や、分析を検討してまいります。ありがとうございます。

○山下会長

中西委員、よろしいですか。

○中西委員

ありがとうございます。要するに35人なり40人に1人というのが公平な教育資源の配分だという考え方とするわけですが、さきほども言いましたが、教師にとってはそうではないということですから、すごく大変な子がいる、大変な保護者対応が大変な状態であるというときに、やはり35人とか40人に1人の教員で対応するというのが

果たしていいのかというところまで踏み込んで考えていただけるといいかと私は考えます。回答は求めませんので。ありがとうございます。

○山下会長

ありがとうございます。

○臼田委員

私も2点お願いがあります。報告書の概要版ですが、いきなり検証の目的となっていますが、まずは統合の目的をきちんと書いていただくほうがいいと思います。統合の目的である教育環境の向上をしっかりと記載いただいた方が報告書として分かりやすいかと思うので、1ページ目はその点を追加していただきたいと思います。

次の最後のページですが、今回の報告では教育環境が統合により改善されたということが成果ですので、上部にその点をしっかりと書いていただきたいと思います。下部に記載の内容は統計上の留意点ですので、そこは小さくして頂ければ良いかと思います。微調整ですので、事務局側でご対応頂ければいいと思います。

もう一点は、今回の報告は統合半年後に取られたアンケートの結果ですが、1年半後もアンケートを取られるとお聞きしております。それ以降も、アンケートを取り続けられるのかを事務局で整理いただきたいと思います。

学校統合後となりますと、子どもがどんどん変わってもいきますし、先生方も入れ替わります。引き続きアンケートを取り続けても、統合前を全く知らない方々がアンケートに答えることになりますので、よく分からない結果になってしまうのではないかと思います。委員の先生からもご意見がありましており、統合前からいた先生かどうかをきちんと把握した上でアンケート結果を整理していただくほうが最終的な成果として分かりやすいかと思います。アンケートをいつまで続けるかも含めて、事務局として検討いただきたいと思います。事務局からのお答えは結構ですので、意見としてお伝えしておきます。

以上です。

○山下会長

ありがとうございます。非常に前向きな建設的なご意見かと思います。もし、事務局何かレスポンスがあれば。特にレスポンスは不要ということもありましたが。

○山東学校適正配置担当課長

まず、1点目の概要版の修正につきましては、ご意見を踏まえて修正を検討したいと思います。

アンケートについては、これまで半年後のアンケートのみを行っております。今後、教職員については半年後と1年半後にアンケートを行うことで、学校運営が半年後はなかなか落ち着いていないけれども、1年半の時間がたってどうなっているかをみていきたいと考えております。それ以降、アンケートは何度も取ることは考えておりません。

○山下会長

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。本日も非常に様々に大事なご意見、ご質問をいただけたと思います。また事務局、十分既に緻密な取組をしていただけてますけれども、また今回頂戴したご意見を活かしていただいて今後の適正配置に努めていただければと思います。また、我々委員も微力でありますけれども、それに尽力、協力していくことができればと思います。

それでは、進行をこれまでとさせていただきますして、事務局にお返しいたします。

○事務局

山下会長、ありがとうございました。また、委員の皆様方におかれましても、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第44回大阪市学校適正配置審議会を終わらせていただきます。皆様、ありがとうございました。